

「カウンセリングを学ぶ。カウンセリ  
ングで学ぶ」

これは、今から50年ほど前、カウンセリング  
の世界の一部でカリスマ的存在であったT  
先生が、研修会で大きく板書された言葉です。  
そして、先生は次のように言われました。

「カウンセリングを“勉強しに来たなら  
ば、わけ分からずに終わってしまうだろうと

## ナビゲーター

思う。カウンセリングで“勉強するのです。  
カウンセリングで何を勉強するかは、ご本人  
が勉強したいことをするのです」

そして、次のように続けられました。

「『カウンセリング』という言葉を使うと、  
何かカウンセリングというものがあって、こ  
のカウンセリングを勉強すれば、カウンセリ  
ングが分かるみたいに多くの方は思うらし

回 28

## 産業カウンセラーの現場から 相談者の思いに共感して伴走する

# “を”と“で”の違い

い。そうではなくて、カウンセラーと呼ばれ  
ている人とクライエントと呼ばれる人が、何  
らかの接触を続けていくと、その中で、何か  
『人間が成長する、育つていく』という現象  
が起こる。そこで、いったい何がどうなっ  
て起きるのだろうか、はつきりさせていこう  
とする、その取り組みを仮に『カウンセリ  
ング』と呼んで、いろいろと研究したり、究明  
したりし始めるのです。カウンセリングには  
公式があるわけではない。その人その人の真  
髓に即したカウンセリングを、その人その人  
が開拓していくのです」

「“を” と “で” のたった一字、され  
ど一字」

この研修会での学びが、カウンセラーとし

## カウンセリングで学ぶ

ての私の最初のターニングポイントになりま  
した。当時、「面接のカセットテープを縦に  
積んで自分の身長になるくらいになれば、ま  
あ聴けるようになる」と言われていて、私も  
ひたすら学習仲間と面接場面を録音し逐語記  
録作成↓グループ検討に熱中し、カウンセリ  
ング“を”学ぶ”ことに多大なエネルギーを  
費やしていました。それがこの日を境に気持  
ちに予期しない変化が生じ、「カウンセリン  
グ“で”学ぶ”ことへと興味関心のベクトル  
の向きが大きく変わりました。

「カウンセリングとは？」

T先生の著書『自己の構造』(昭和44年発行)  
に、カウンセリングについて、『クライエン  
ト』がなすべき仕事は、誰よりも『クライエン

ト自身』がもつともしたいと思うことを、でき  
るだけ最大限に遂行することです。そして、  
『カウンセラー』がなすべき仕事は、『クライエ  
ント』が、今、そこで、もつともしたいと思うこ  
とが、できるだけ最大限に遂行できるように  
援助することです」と書かれています。

この言葉も「カウンセリング“で”学ぶ」  
につながり、カウンセラーとしての私の中で  
重要な位置を占めています。現在の私は、カ  
ウンセラーとして多くの方々と向き合いなが  
ら、T先生の「人間は生まれながらに学習者  
なのです、学習しないでいられない生き物  
なのですよ」という言葉通りに、「カウンセ  
リング“で”学ぶ学習者」の道を楽しく歩き  
続けています。

【日本産業カウンセラー協会中部支部会員  
シニアカウンセラー 2級キャリアコンサ  
ルティング技能士 麻生和代】  
(火曜日掲載)

